

第3章 伊予市の環境目標

1 将来環境像

環境の基盤となる大気、水、土壌、地質、動植物、景観などの自然環境は、長い時間をかけて形成されてきたものです。また、現在、生じている様々な環境問題は、人類が与えてきた影響の蓄積の結果でもあり、その変化を把握するためには長期的な視点が必要となります。

そのため、環境基本計画では、短期的には緊急性の高い問題に迅速に対応しつつ、一方では、長期的かつ戦略的なビジョンを持って推進していくことが重要となります。

本計画では、計画の推進にあたり長期的な将来目標となる将来環境像を以下のとおり設定します。

伊予市の将来環境像

未来につなぐ 環境に優しい
持続可能なまち 伊予



第1章

第2章

第3章

第4章

目標1

目標2

目標3

目標4

第5章

第6章

2 環境目標

目指す将来環境像を実現するために、4つの環境目標を設定します。

環境目標1 住み続けたいくなる快適な生活環境が守られるまち

市民、事業者、行政が、それぞれ環境基準等の遵守を第一に行動しつつ、さらに快適な生活環境となるよう努力することで、住み続けたいくなる快適な生活環境を守り続けていきます。

また、地球環境や自然環境への総体的な影響を緩和し、また不確実性の高い将来変化に適応する安定的な生活を維持するために、人が多く集まり、事業所等が集積する、魅力のあるまちの構造の形成に取り組んでいきます。

環境目標2 自然環境が持続可能な利用で守られるまち

本市には豊かな緑や水辺などの自然環境が存在し、農林水産業などを通じて、それら生態系の恩恵を受けています。これらの豊かな自然環境を維持し、継承していくためには「保全」だけでなく、「持続可能な利用」についても取組を進める必要があります。

豊かな森林や水辺環境、農地などの自然環境の保全や里地里山の管理とともに、生物多様性の持続可能な利用に対する取組に市民、事業者、行政が一体となって取り組んでいきます。

環境目標3 環境にやさしい暮らし方が続けられるまち

温室効果ガス排出量の着実な削減とゼロカーボンシティの実現に向けて、さらに再生可能エネルギーの導入や、省エネルギー行動の普及を進めていきます。

また、本市が有する歴史や風情のある景観を活かしつつも、低炭素まちづくりとして、新しい交通体系の整備や技術の導入、レジリエントなまちづくりなどを戦略的に進め、新しいまちづくりを推進していきます。

資源循環の観点では、プラスチック廃棄物量の削減や、食品ロスの削減を進めるなど資源循環に関する取組を推進していきます。

環境目標4 環境教育や環境行動が日常にあるまち

市民、事業者、行政が協力し、「自分ごと」として環境への負荷を低減させることが、結果的に本市の豊かな恵みと、安定的で快適な生活環境を維持し、住み続けたいと思えるまちづくりにつながります。

本市が有する豊かな自然環境や再生可能エネルギー、ICT*などの最新技術を活用し、市民、事業者、行政が一体となった環境教育の実施により、計画の目標達成に向けた着実な一歩とすることで、やがて、環境教育や環境行動が、普段の生活の中であたりまえに実施されるようになることを目指していきます。

3 計画の施策体系

本計画では、目指す環境目標の実現に向け、4つの環境目標それぞれに施策の方向性を設定し、具体的な施策を体系化します。